

キャラクター名
神在 美月

プレイヤー名

シンドローム	ノイマン ノイマン	ワークス	レネゲイドビーイングC	カヴァー	ネズミ
オプション		年齢		性別	
覚醒	素体	衝動	嫌悪	初期侵食率	36 %
出自	使命	経験	研究機関	邂逅	忘却

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	29
肉体	0	0	0	1		1	行動値	9
感覚	0	0	0	1		1	(非装備時)	9
精神	6	1	0			7	戦闘移動	14
社会	2	0	0			2	全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	1		交渉	1	
回避			知覚	1		意志	1		調達		
運転:			芸術:			知識:			情報:	UGN	1
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
進め、夢の下へ		0				常勝の天才 戦術 フェンアウト 10x28 射撃 射撃=20 ダメージ+28 ダイス+5 戦闘移動出来る
歩め、夢の下へ		0				常勝の天才 戦術 フェンアウト 侵食値+20 ダメージ+28 ダイス+5 戦闘移動出来る

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
Dロイス: 触媒	P	N		
夢	P 庇護	N 偏愛		
研究者	P 懐旧	N 恐怖		
柊 氷見音	P 懐旧	N 不安		
へんたい	P 有為	N 侮蔑		
猫(ミニー)	P 庇護	N 恐怖		
もやし	P	N		

最大財産P: 4 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
常勝の天才	7	6	セットアップ	視界	シーン(選択)	自動	ピュア	
効果:	対象の攻撃力+[lv*4] 1シーン1回							
戦術	5	6	セットアップ	視界	シーン(選択)	自動	-	
効果:	対象がメジャーで行うダイス+[lv]個							
フェンアウト	2	4	セットアップ	至近	範囲(選択)	自動	-	
効果:	対象は戦闘移動を行う							
アドヴァイス	1	4	メジャー	至近	単体	自動	-	
効果:	対象の次のメジャーのCL値-1							
天性のひらめき	2	4	メジャー	-	-	-	-	
効果:	C値-[lv] 戦闘時不可							
生き字引	1	2	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果:	<情報:>の代わりに使用出来る このとき<意志>で判定しダイスを+[lv]個する							
ヒューマンズネイバー	1	-	常時	至近	自身	自動	RB	
効果:	衝動判定+[lv*d]							
オリジン:レジェンド	5	2	マイナー	至近	自身	自動	RB	
効果:	そのシーンの間精神での判定の達成値+[lv*2]							
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

マウス…この言葉を聞いたとき君は何を思い浮かべるだろうか
ある人は人間社会に巢食う害獣のを
ある人はPCの周辺機器として使用する物を
ある人は発明の為に犠牲となる実験動物を
そしてある人は夢の国に住まうという生物を…
また、昔は災厄を運び人々に死をもたらしてきた。
かのマウス一つとっても多くの"イメージ"を持たれているものだ。

ただ使い潰されるのを待つ実験動物の一つでしかなかった私がなんの因果か人々の憐憫を恐怖をそして夢を貰い上げ今ここに存在しうるのはただの奇跡としか言いようがない。
覚醒の記憶は臆だが「人」の"イメージ"が私を私たらしめている事だけは微かに分かる。
つまり、だ「マウス」というものに「人」が求めたもの思い描いた姿がこの私であるのだ。どうせなら私を作ったともいえる「人」のために動くのも悪くはないだろう。
なぜなら私こと「マウス」へのもっとも大きな思いが「人」の「夢」だったのだから。
たとえそれがどれほど儚いものであっても守るのが夢の使者ってもんでしょ？

「私は神在美月よ。もとは…いえ、あんまり聞かせるものじゃないわね。ある動物がレネゲイドビーイングとして覚醒した存在よ。」
「昔は名前なんてなかったけどある時誰かにつけられたのよ…神が在るで神在だって…」
「正直、記憶もないいい印象もないはずなんだけども、この名前だけはとても気に入っているわ。だって神が在るだなんて夢で出来た私にはもっとも似合ってるでしょ？」
「ノイマンらしく天才的導きであなたの夢が叶うよう少しぐらい助けてあげるわよ」
「がんばりなさい」